長野県食と農業農村振興審議会南信州地区部会議事録

１　日時　令和５年７月６日(木)　13:30 から 15:30 まで

２　場所　長野県飯田合同庁舎　講堂

３　出席委員
熊谷宗明（長野県農業経営者協会下伊那支部長）
熊谷美沙子（長野県農村生活マイスター協会飯伊支部長）
高坂つかさ（阿智村　農業者）
木下義隆（飯田市　農業者）
髙田清人（南信州農業委員会協議会長）
北原とし子（長野県農業委員会女性協議会下伊那支部長）
塩澤　昇（みなみ信州農業協同組合常務理事）部会長
原　昭章（長野県小渋川土地改良区理事長）
小澤めぐみ（飯田下伊那栄養教諭･学校栄養職員部会顧問）
河合伊津子（(有)あちの里　取締役）
松江良文（飯田市産業経済部農業課副参事）

４　次第
（１）開会（南信州農業農村支援センター所長　佐々木直人）
（２）あいさつ（南信州地域振興局長　丹羽克寿）
（３）第４期長野県食と農業農村振興計画の概要について
（４）会議事項（議長：部会長　塩澤昇）
　ア　令和４年度南信州地域計画の取組実績について
　イ　令和５年度南信州地域計画の実行計画について
　ウ　長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言
（５）閉会（南信州農業農村支援センター所長　佐々木直人）

５　長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言
【熊谷宗明委員】
　めざす姿「皆が憧れ稼げる南信州農業」について、農業は今、皆が憧れている産業なのかどうか。担い手を確保するためには、儲かる農業、楽しく、やりがいがなければならない。それをめざすために、中野市のシャインマスカット農家等の優良農園を紹介していくべきではないか。
　重点取組６の「農や食の理解醸成」について、小中学生に農業そして食の循環を理解してもらう食育が重要。日本の食育は、海外に比べて遅れている。松川町では有機給食に取組み、徐々に成果があらわれているが、町の人員も限られており、みどりの食料システム戦略を進めるうえで、国、県の人的支援が必要と考える。
　重点取組５の「リニア新時代　世界に通用する農村交流の体制構築」について、達成指標「都市農村交流人口」はもっと大きくして、観光客や関係人口によって地域が潤うような施策を行うべき。松川町の観光農園では後継者が育っている。観光農業にも力を入れてほしい。
（佐々木所長）
　優良農園、儲かる農業をもっと紹介するべきというご意見をいただきました。計画本冊 61 ページから県内の経営体の実例の紹介があり、これをモデルとしてステップアップ、規模拡大する中で所得目標 1000 万円をめざす類型をそれぞれ品目ごとにお示ししています。また、先日の農業経営者協会、下伊那農業高校との３者での意見交換会時にも、農業高校生に儲かる、やりがいの部分をＰＲするべきとの同様な意見をいただきました。一つの方法として、特に卒業生の先輩に直接話を聞ける機会等により、１人でも２人でも将来やってみたいと思うきっかけを作ることが必要というご意見もいただきま

したので、引き続き関係団体と連携をさせていただき取り組みたい。
　松川町の有機給食取り組みは、全国でトップクラスですが、県としても、特に有機農業は、環境に優しい農業の一つとして、計画の中で推進することとしており、特に市町村と連携を図る中で、引き続き取り組みたい。
　都市農村交流については、コロナが５類に移行して交流が戻りつつある状況。支援センターで直接的に交流人口を増やす部分はないが、間接的には観光農園の農家への技術的な支援を行う。また、達成指標をもっと大きくとのご意見ですが、地域振興局の中で商工観光課等とも連携を図りながら、引き続き取り組みたい。

【熊谷美沙子委員】
　生業とする農家への支援は多い。天龍村の農業、ＪＡの製茶工場にかかわる中で、生業としない農、小さな農地への支援も必要と考える。高齢化が進み、条件不利の農地は、鳥獣被害等により遊休化することで、景観面や防災面で問題となる。これを意識する中で、大きな施策を実施してほしい。
　重点取組６の「農や食の理解醸成」について、保育園や小中学校対象の食育が多いが、県の食育推進会議で、高校生、大学生の食育をどうするか課題とされており、今計画の中で対応をいただきたい。また、若い世代を中心に、食事のマナーがよくない。食育では、美味しく、美しく食べる、好き嫌いをしないということも重要。
（佐々木所長）
　小さな農地、条件不利地域の方にも目を向けるべきとのご意見について、兼業農家、農ある暮らし、半農半Ｘについても、農業農村を維持する上で欠くことはできない。今後、各市町村で策定する地域計画では、これらも含めて位置づけることとされている。困難な場合は、活性化計画の中で林地化の方法もある。支援センターでは市町村ごとに支援チームを作っており、市町村のバックアップ体制をとりながら取り組みたい。
　高校生、大学生の食育については、飯田市のかたつむりの会という若手のグループが高校へ出前講座に行って農業の魅力を伝える取り組みがあり、また昨年は、阿智高校でのガレット教室の取り組みをしている。今後も、関係機関と連携して、高校生等を対象にした食育についても取り組みたい。美味しく食べる美しく食べるという部分もあわせて食育の中で取り組みたい。

【高坂委員】
　重点取組１の「皆が憧れる農業の担い手の確保・育成」について、就農から一定期間経ちある程度方向性が落ち着いてきた段階で、カイゼンや法人化、人材育成のセミナー等があると良い。また、新規就農者や女性農業者にとって、同じ悩みを共有できる仲間づくりは重要。子育て中でも気軽に参加できる会があると良い。その会が母体となって食育や農業体験にも貢献できる。
　重点取組の５「リニア新時代　世界に通用する農村交流の体制構築」について、都市部の中学生の修学旅行の受け入れを３年ぶりに再開した。南信州での心に残る体験を期待されており、提供するホスト側として、期待に応えられるよう取り組みたい。この受入れにより農家も刺激を受けることができる。
（佐々木所長）
　中核的経営体を対象とした研修については、県のＭＢＡ研修など売上拡大をめざしてステップアップしていく方を対象にそれぞれの分野の専門講師による講座があります。
　子育て中の女性の方が気軽に参加できる会議等ですが、先日も新規就農者激励会があり、同期の仲間作りや横のつながりも大事ですので、支援センターでも引き続きの支援をしていきたい。
　都市からの中学生の受け入れについては、南信州のその魅力を地域外に伝えるとてもよい取り組み、ぜひ引き続きお願いしたい。また、受け入れによって農家の刺激になるとのこと、重点取組５の中で、引き続きぜひお願いしたい。

【木下委員】
　重点取組１の「皆が憧れる農業の担い手の確保・育成」について、新規就農する若手が少ない。農業

が儲かる、単収で儲かることが分かれば、増えていくのではないか。機械が値上がりしており、さらに手厚い補助が必要。果樹の新規就農時には棚等で初期投資が必要であり、５年後 10 年後にその返済ができるかどうか。

重点取組２の「新技術や新品種の拡大による競争力の強い果樹産地づくり」について、温暖化でふじはこれからを作りづらくなる。それに代わる晩生の品種が出るかどうか。安定してきたなしへの移行か、ぶどうへの移行か。先が読めない。

かたつむりの会やＰＡＬネットながのでの取り組みで、食育活動や出前授業を行っているが、高校生の反応が薄く、農業に魅力を感じているとは言えない。これからも伝える努力をしていきたい。

（佐々木所長）

新規就農の際の有利な助成金については、国の新規就農総合対策の中で、本人負担が４分の１の経営発展支援事業が新設されました。新規就農者の皆様には、こちらから情報提供をしながら取り組みたい。

温暖化対策については、県果樹試験場で露地よりも２度、温度設定を高くしたハウスの中でふじの影響を研究していますが、色づきや果形に影響が出てきています。品種開発にも取り組んでいますが、果樹の育成には時間がかかり、今のところ新たな品種はありません。特にこの南信州地域はりんご栽培の南限、かんきつ栽培の北限という有利な地域であり、複数品目の組み合わせや優良品種や省力樹形もご検討いただきたい。

高校生への出前授業については、色々な方からご意見をいただく中で、どうしたら関心を持っていただけるか、事務局の支援センターとしても一緒に議論させていただきたい。

【髙田委員】

重点取組４の「皆でつなぐ豊かな農村」の地域計画の策定に関して、法改正により令和６年度末までに策定、一筆ごとの将来地図を作成することとされているが、非常に膨大な事務量となっている。農業者や農地だけにとどまらず、地域の人や土地も含めて、行政や自治会等地域が一体となって作っていくことが必要であり、支援をお願いしたい。

農地の遊休化を防止し維持していくためには、機械化の進んだ水田農業の維持が重要。その中で、中核施設であるライスセンターが老朽化しており、統廃合の論議がされているが、国・県に地域の農地を維持していく観点から、改修に活用できる補助事業を検討してほしい。

（佐々木所長）

地域計画の策定については、特に策定から実践まで市町村、そして農業委員会の業務増加が予想されますが、先月、県が国に、必要な予算を確保するよう要請したところです。県内では、策定作業はこれからというところがほとんどであり、他の地域の情報等もお繋ぎしながら、支援センターのチームの中で引き続き支援していきたい。

水田農業の維持、米政策の推進については、ＪＡや農業再生協議会等を通じて、方向性等を引き続き検討したい。

【北原委員】

重点取組６の「農や食への理解醸成」について、そばの生産がある地域でありながら、そばガレットを扱う店がまだ少ない。地元阿智高校の生徒が広めてくれたそばガレットを、地域振興のため、さらに広めてもらいたい。

また、捕獲した鹿の肉は、ペットフードではなく、ジビエにしてほしい。鹿肉は、脂身が少なく、歯ごたえがあるよい食材。飯田は焼き肉の町、鹿やイノシシの肉の利用拡大を進めてほしい。リニア開業を見据え、交流人口を増やすためにもジビエ料理を開発して広めてほしい。

（佐々木所長）

そばガレットについては、令和５年度計画のエシカル消費を推進するため地域農畜産物などの利用促進の中で、農村生活マイスターや農村女性ネットワーク会員を対象とした地域食材を活用したガレット講座を計画しています。

（丹羽局長）

そばガレットについては、商工観光課とも連携し南信州産シードルとの組み合わせによる普及等検討したい。
鹿は、肉として使える部分は２割程度で、それ以外の部分でペットフードや革製品等に利用しています。また、肉にする場合、鮮度が重要で、流通上の課題となっています。ジビエの振興は、林務課を中心に局内でも検討していきたい。

【原委員】
学校給食へ野菜を供給している中で、肥料・飼料等の高騰が農家の経営を圧迫しており、畜産農家は特に危機的状況となっている。県、市町村の肥料・飼料等高騰対策による支援はあるが、なお一層の支援が必要。
重点取組４の「皆でつなぐ豊かな農村」について、一貫水路の補修には、地域に大きな負担がかかり、計画的な補助事業はありがたい。今後は、この水を利用していかに増収増益を図るかが課題となる。リニア開業を見据えて、野菜や果樹の観光農業等も発達してきているが、継続的に支援をお願いしたい。
（佐々木所長）
肥料・飼料の高騰については、令和４年度の県価格高騰緊急対策の中で補正予算を組んで取り組んできたところです。また、現在開会中の６月県議会でも、特に経営的に厳しい酪農、きのこ農家を対象とした支援として予算要求しているところです。引き続き現場の状況を把握する中で、県に実情を繋ぎながら対応したい。
また、観光農業への支援についても、関係機関と連携しながら取り組みたい。
（小林課長）
竜東一貫水路、竜西一貫水路は、受益範囲の広い代表的基幹的農業水利施設であり、県営事業等切れ目なく事業を実施していきたい。また、土地改良区体質強化事業を通じて運営への支援もしていきたい。

【小澤委員】
重点取組６の「農や食への理解醸成」について、食に関する実態調査では、当地域の郷土食、地域食材の認知度は県平均よりも低い。この結果を受け止め、より一層食育活動を進めたい。子どもたちには様々な家庭環境があり、給食を通じて地域農業や地域食材を伝えていくことは重要。昨年の地区部会での提案から、地域の農畜産物の情報を学校栄養士に提供する取組も始まった。食材の入手方法や有機食材等の新たな情報についても、食育活動に活かせる仕組みができ、子どもたちが地域食材や郷土料理を好きになってもらえるような取組をお願いしたい。
（佐々木所長）
学校栄養士への情報提供については、昨年ご要望もお聞きし、ご提案させていただく中で、取組を始めたところです。引き続きこの計画の中で情報提供回数を指標とし、必要な情報をお繋ぎしていきたい。

【河合委員】
重点取組６の「農や食への理解醸成」について、漬物や総菜、郷土食、伝統食を提供する中で、買い求める地元の人が増えており、それらを提供する者が減り、家庭で作る機会も減っているように感じる。また、個人農家からのジャム等受託加工も増えている状況がある。
地域の中でそばの生産はあるが、そば加工ができる施設がなく、他地域に委託加工している。
（佐々木所長）
そば加工施設の詳細を確認の上、県で支援できることがあれば、対応したい。

【松江委員】
重点取組２の「新技術や新品種の拡大による競争力の強い果樹産地づくり」について、遊休農地対策の品目としての柿は有望。ＪＡでは市田柿バンクによる園地の調整、地元メーカーでは共同で、硫

黄燻蒸対応の機器を開発し、販売開始となる。市としても苗木の補助等行い、ＪＡ等と連携しながら市田柿の振興をしていきたい。その中で、柿の苗木が不足し、確保が課題となっている。

重点取組３の「南信州らしさを生かした複合産地の構築」について、肥料高騰等の情勢を受け、市農業振興センターでは地域循環型農業推進方針を策定し、柿の皮、もみ殻、給食残さ、汚泥等未利用資源活用の検討を始めたが、この視点も重要。

（佐々木所長）

苗木の確保については、苗木業者への新植改植に係る情報提供が重要。ＪＡの市田柿プロジェクトに参画する中で、振興に取り組んでいきたい。

肥料等高騰の中で、地域内循環、未利用資源活用の視点は大変重要な視点。環境にやさしい農業推進の中で、市と一緒に取り組んでいきたい。